

第2回男女共同参画に関する管理職セミナー

(平成23年6月15日実施)

アンケート集計結果

(参加者61名中45名から回収)

Q1 今回のセミナーへの参加は有意義でしたか。

- | | |
|-----------------|-----|
| 1. とても有意義だった | 20名 |
| 2. まあまあ有意義だった | 23名 |
| 3. あまり有意義ではなかった | 0名 |
| 4. 全く有意義ではなかった | 0名 |

Q2 今回のセミナーにはどのような動機から参加されましたか。(複数回答可)

- | | |
|--------------------|-----|
| 1. 講演テーマに関心があったから | 5名 |
| 2. 講師に関心があった | 6名 |
| 3. 男女共同参画一般に関心があった | 20名 |
| 4. 管理職の義務だから | 27名 |
| 5. その他 | |
| ・強制 | |

Q3 次回以降も男女共同参画に関する管理職セミナーに参加したいですか。

- | | |
|------------|-----|
| 1. 参加したい | 19名 |
| 2. 参加したくない | 0名 |
| 3. テーマによる | 21名 |
| 4. 日程による | 5名 |

Q4 次回以降のセミナーで聞いてみたいテーマを選んでください。(複数回答可)

- | | |
|------------------------|-----|
| 1. 大学におけるワークライフバランスの取組 | 13名 |
| 2. 企業におけるワークライフバランスの取組 | 7名 |
| 3. 大学における女性研究者増加のための取組 | 6名 |
| 4. 企業における女性活用のための取組 | 7名 |
| 5. 大学の管理運営と男女共同参画 | 15名 |
| 6. 育児・介護と仕事の両立 | 10名 |
| 7. ストレス予防, メンタルヘルス | 15名 |
| 8. 仕事の効率を高めるタイムマネジメント | 17名 |
| 9. その他 | |

・教員の家庭問題, 心の問題が業務遂行に影響しており, 管理者として悩みの種となって

いるため(7)のテーマで聞いてみたい。

- ・在宅勤務に関するテーマ
- ・大学の管理運営

Q5 本日のセミナーの感想をご自由にお書きください。

- ・とても参考になりました。
- ・予算が限られた範囲で男女共同参画についての効果的な方策について九州大学の取組が聞けると良かった。またWLBを考慮した教員任用での工夫が聞けると良かった。
- ・管理職の立場に立って聞いていると、制約条件の下で効果を上げるため工夫や大学教員が納得する男女共同参画の取組例等の話があると良いと感じた。その意味では、教員任用におけるポイント制は興味深かった。
- ・人員管理をポイント制で行ない、それを活用して女性教員の増加を進めている点は、すばらしい方法であると思えた。本学も定員削減のみを考えるのではなく、ポイント内での部局裁量の拡大による教育研究体制の充実、女性教員・外国人教員の増加を図れるようにすべきであると感じた。
- ・許理事の言葉にもあったが、基礎は我々の【頭】の構造であろう。一度、男女共同参画、性差別等についての価値観、世界観（意識の醸成）をテーマとした研修を持つことも必要か。（講師を誰にするか、問題だろうが。）*我が家では、「お茶！」と言っても何もできません。ひょっとしたらこの次元も【醸成】の対象かとも感じました。
- ・時間の配分が極めてまずい。13時から会議。休み時間が無いに等しい。10時30分からスタートすべき。
- ・13時から専攻長会議です。時間は厳守でお願いします。
- ・時間が短いのでは。90分は必要。
- ・実現をふまえたポジティブアクションの正当性は面白かった。
- ・東北大の元理事に言われたからではなく、自発的に実施しているセミナーとしてほしい。時間を見て終了時間を超えることが無いように願います。（今回はひどすぎ）
- ・男女共同参画の課題が見えたと思います。
- ・もう少し時間があればよかったと思います。
- ・ポイント制と女性教員を採用するためのポストの確保の部分がもう少し聞きたかった。
- ・九大における女性教員増に係る取組は、非常に参考になりました。
- ・女性研究者へのサポート体制について、新たな取組がなされることの必要性が理解できた。
- ・特に入試の件について、生の声を聞くことができ、大変よかったと思います。
- ・九大に対する外部評価Sおめでとうございます。
- ・岡大を離れ九大に勤めたいと考える女性研究者が出ないことを望みます。
- ・講演内容が「女性研究者」に絞られていたので、その枠を超えた質問はルール違反かも知れませんが、九大内の「一般女性職員」の男女共同参画はどうなのでしょう？

IV-i-6 (4) ニュースレター発行状況

男女共同参画室の活動を学内外へ周知するために、平成22年度に引き続き、定期的にニュースレターを発行し、学内構成員への配布、ウェブページへの掲載、各種イベントでの配布を実施した。

号数	発行年月	特集
第4号	2011年5月	「女性教員の研究活動をサポートしています」
第5号	2011年8月	「岡山大学ウーマン・テニユア・トラック(WTT) 教員制度」
第6号	2011年11月	「次世代女性研究者育成推進事業」
第7号	2011年2月	「中国四国地区大学との連携」

IV-i-6 (5) ニュースレターラピッドの発刊

ニュースレターの定期的発行に加えて、平成23年度からは速報用の広報媒体としてニュースレターラピッドを創刊した。他のイベントのチラシの裏面等を活用するとともに、ウェブページへの掲載を実施している。

号数	発行年月
Vol.1	2011年4月
Vol.2	2011年6月
Vol.3	2011年6月
Vol.4	2011年8月



ニュースレター第4号 (第1面) (平成23年5月発行)

**第4号
2011.5**



平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業採択
文部科学省科学技術人材育成補助金「女性研究員研究活動支援事業」(女性研究者支援モデル育成)
学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン
岡山大学ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室



男女共同参画

Newsletter

もくじ	
学長、理事あいさつ	1
お知らせ	1
男女共同参画室の取り組み	2
「進化プラン」の最終年度を迎えて	2
特集:女性教員の研究活動をサポートしています	3
平成23年度活動予定	4
男女共同参画室員からのメッセージ	4
データで見る岡山大学 男女共同参画の現状②	4
編集後記	4

学長あいさつ

岡山大学は全国有数の歴史、規模を持つ総合大学であり、中国・四国地域における美しい学都として、国際的な研究・教育拠点とすることを目指しております。

本学が目指す国際的な大学創成には、国や地域、人種や男女にとらわれず多様性を高め、ダイバーシティ文化の醸成に努めることが肝要であり、これは現在ダイバーシティ推進本部において鋭意進められているところであります。また、平成21年度文部科学省科学技術振興調整費事業採択の「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」の推進は、国際的な研究・教育拠点の形成に欠くことのできない重要な事業と考えています。

本事業も最終年度を迎えましたが、これまで男女共同参画室が中心となり、女性研究者育成・支援事業のシステム構築を進めてまいりました。同時にシンポジウム、交流サロン事業を通じた意識改革の啓発、「おかやまサイエンス・トーク」を通じた科学の面白さを高校生へ発信する取り組みも進めております。ウーマン・デニユア・トラック(WTT)教員採用も順調に進み、女性研究者のサポート体制も充実する一方で、保育所の整備などの次世代育成支援策も急速に進展し、女性研究者の就業環境は確実に改善されてまいりました。

本事業が初期の目的を十二分に達成し、岡山大学の一層の発展に重要な役割を担うことを期待いたしております。今後とも、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。



国立大学法人岡山大学
学長 森田 深

理事あいさつ

岡山大学の「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」(平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業)も最終年度を迎えました。

現在、本学の自然科学系分野の女性教員割合は10%ですが、これを大きく増加させることが事業の第一義的目的であります。欧米の先進国では30%を超えている国も多い現状から、一層の増加が期待されます。特に、国際的な研究・教育拠点を目指す本学では、女性教員の割合を更に引き上げることに加え、男女共同参画社会の実現に向けて学生も含めた全構成員の意識改革、働きやすい職場環境の整備を今後とも推進していきたいと考えております。

本学が真に国際的な「知」の拠点となることで、世界に通用する個性輝く多くの研究者が育ち、特に世界に羽ばたく多数の女性研究者が育つことを期待し、今後も次世代育成支援策を含めた男女共同参画の推進に取り組んでまいります。

事業最終年度では、これまで進めてきた就業環境整備の一層の充実、女性研究者サポート体制の整備・充実を図り、これまでの活動の総括と評価・検証を行い、来年度以降の継続的活動につなげていきたいと考えております。今後とも、ご指導とご鞭撻のほどお願い申し上げます。



国立大学法人岡山大学
ダイバーシティ推進本部
本部長 許南浩
(理事・副学長)

お知らせ

平成23年度 第1回交流サロン開催
信頼を築くコミュニケーション術～気持ちを聴く・気持ちを話す～

日時 平成23年6月22日 15時00分～17時30分 講師 市場 恵子氏(心理専門相談員・
場所 岡山大学創立五十周年記念館(2階)大会議室 広島大学等 非常勤講師)

本年度第1回交流サロンは、職場の上司と部下、同僚同士、教員と学生、妻と夫など、様々な関係において必要とされるコミュニケーションの方法について学び、スキルを高めることを目的として開催します。

子どもが病気になる時、どのように職場の上司や同僚に自分の状況を伝えれば、気兼ねなく休むことができるでしょう。また、あなたは人の話をどのように聴けばよいでしょう。このようなことについて参加者みんなで考え、簡単な練習をしてみませんか?

参加無料・当日参加可
事前参加申し込みにご協力下さい!



お申し込み・お問い合わせは男女共同参画室まで
E-mail: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp TEL: 086-251-7011

ニュースレター第4号 (第2面) (平成23年5月発行)

男女共同参画室の取り組み

「進化プラン」の最終年度を迎えて

「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」が走り始めてはや3年目となりました。「研究サポート体制」を充実させ、WTTによる「雇用」のチャンスを確保し、次世代に向けて循環型人材育成を牽引しています。この2年間の活動を基盤に、本年、「岡山大学男女共同参画推進基本計画」を策定しました。本計画に則って、今後、推進体制が整備され、活動が恒常化されますように、皆様方のご理解と御協力を御願ひ申し上げます。



ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
室長 沖 陽子

岡山大学男女共同参画推進基本計画の策定

平成23年3月、男女共同参画に関する基本理念、基本方針、行動計画、および男女共同参画推進体制の整備と計画期間からなる「岡山大学男女共同参画推進基本計画」が策定されました(教育研究評議会および役員会にて承認)。基本計画には下記の5つの基本方針のもと、今後の具体的な行動計画が立てられています。

…基本方針…

1. 教育・研究および就労における男女の均等な機会の保障
2. 教育・研究および就労と生活との両立支援
3. 男女共同参画の視座に立った人材育成
4. 男女共同参画に関する意識改革
5. 男女共同参画に関する取組における地域社会との連携

今後は行動計画に基づき全学的な取り組みが進められます。詳細はホームページをご覧ください。

第Ⅱ期 岡山大学ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 教員採用



辞令交付式
(平成23年4月4日 学長室にて)

第Ⅱ期WTT教員

氏名	所属
前田 恵	大学院自然科学研究科(農) 生物機能化学講座 バイオサイエンス専攻
宮崎 祐子	大学院環境学研究科(農) 環境生態学講座 生命環境学専攻
飯尾 友愛	大学院保健学研究科 検査技術科学分野 生体情報科学

岡山大学では、「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」の一環として第Ⅰ期ウーマン・テニユア・トラック(WTT)教員4名(平成22年4月1日採用)に引き続き、第Ⅱ期ウーマン・テニユア・トラック(WTT)教員を公募し、平成23年4月1日付で3名を採用しました。WTT教員3名には、学長より直接辞令が交付されました。



講義「社会人のためのプレリūd: 望ましいライフスタイル実現のために」

平成23年度前期は、WTT教員を始めとする学内講師8名および学外講師4名の協力の下、教養教育科目の主題科目(人間と社会)として「社会人のためのプレリūd: 望ましいライフスタイル実現のために(2単位)」を開講しています。



WTT 教員を迎えて(授業の様子)

女性サポート相談室だより

第5回キャリアカフェ

4月27日(水) 本部棟にて、第5回目となるキャリアカフェを開催しました。「女性のライフプランを考える 10年後どんな女性でいたい」というテーマで、ランチの時間を使って開催し、参加者それぞれがお弁当を持ち寄り和気藪々とした雰囲気の中で意見交換を行いました。参加者の30代女性から、現在の仕事と子育てに関する大変さや将来への漠然とした不安について次々に語られました。それに対して、こうした問題を乗り越えてきた先輩の女性職員から、自分の体験談を交えて、さまざまなアドバイスがありました。

参加者からは、「毎日子育てと仕事に忙しく、自分の10年先について考える暇はなかったが、今回をきっかけにじっくり考えた

い」漠然と出産や子育てをイメージしていたが、経験者のいろいろな話を聞いてとても参考になった」との感想が溢りました。

当日は、キャリアカフェの終了時刻が過ぎても話が終わらないほど盛り上がりしていました。日頃業務に忙しく、いろんな話ができないのではないかと思います。こうしたキャリアカフェを通じて話し合いの場、学内の輪を作っていきたいと考えています。次回からは多くの方々のご参加を期待しています。

最後に、職場や家族のこと、子育てに関する不安など、女性のさまざまな悩みに対して、女性サポート相談室は情報提供や相談活動を行っています。どうぞ気軽にご利用ください。

[受付電話] 086-251-7011(男女共同参画室)

[メール] support-w@adm.okayama-u.ac.jp

[相談時間] 10時~16時まで

[場所] 鹿田地区…医学部記念会館3階(月曜日)

津島地区…環境理工学部2階
キャリアサポート室分室(水・金曜日)

ニュースレター第4号 (第3面) (平成23年5月発行)

特集：女性教員の研究活動をサポートしています

特集

女性教員の研究活動をサポートしています

岡山大学では、平成21年度より、科学技術振興調整費(現在、「科学技術人材育成費補助金」)により「学都・岡大 女性研究者が育つ進化プラン」を実施しており、女性研究者の能力が十分に発揮できる研究環境の整備を目指しています。「進化プラン」で実施している事業の1つである研究支援員事業では、出産・育児・介護等の理由により仕事と家庭の両立が難しい理系(注：自然科学系および生命科学系)の女性教員に対して、研究補助業務に従事する研究支援員を配置しています。平成23年5月1日現在、主として生命科学系の女性教員6名が研究支援員事業を利用しています。

研究支援員事業利用者の選考にあたっては、複数の男女共同参画室員が申請資格を満たす利用申請者を直接面接しています。その際には、育児等により研究活動に支障が出ていて特別な支援が必要かどうか(研究サポートの必要性)および支援を行うことによって研究活動が推進される見込みがあるかどうか(研究推進効果の見込み)の2点を主たる判断材料としています。

研究支援員は、実験補助、研究データ解析、統計処理、資料作成、文献調査などといった幅広い研究補助業務を女性教員のニーズに応じて行います。これまでに、本学の大学院生や理系分野での修士号を持った方など、13名の優秀な方々が研究支援員として採用されました。

研究支援員事業利用者の第3次募集は、6月中に行う予定です。申請が認められた場合、平成23年10月から平成24年3月までの最大6ヶ月間利用することが可能です。是非応募をご検討下さい(お問い合わせは男女共同参画室(内線：7016)まで)。なお、第3次募集分につきましては、研究科所属の理系の非常勤研究員の方も応募していただけます。

岡山大学人材登録バンクとは

男女共同参画室では、研究支援者候補に関する情報を収集・提供する「岡山大学人材登録バンク」を設置し、女性教員の研究活動を支援しています。実験補助や文献調査等の研究支援を行っていただける方は男女共同参画室のホームページから登録願います。

なお、常勤の女性教員の方は、研究支援員事業の利用とは関係なく、ご自分の研究費等により研究支援者を雇用する際に、人材登録バンクから情報の提供を受けることができます。

** 研究支援員事業に関する意見交換会のお知らせ **

平成23年度末をもって「進化プラン」は終了しますので、平成24年度以降の研究支援員事業については内容を見直す必要があります。そこで、8月から9月にかけて、出産・育児期の女性研究者支援を考える意見交換会を鹿田地区で2回開催します。この問題に関心がある方の積極的なご参加をお待ちしております。



利用者紹介

プロフィール

菅原 康代 助教

大学院医歯薬学総合研究科 歯科矯正学分野

現在研究支援員事業を利用させていただいております。子供が産まれる前までは、臨床系に属しているため、日中は診療や教育、夕方から研究という日々を送っていました。すべての時間が自分の自由になっていたため、自分だけの都合で研究計画も立てることができ、また研究も時間の際限なく行っていました。しかしながら、子どもが産まれてからは、夕方から研究活動をスタートさせるという、生活スタイルを維持することが困難になりました。また、子供もまだ幼いため、自分の事が自分で出来ず、また離乳食などの都合上、早めの帰宅が必要となっていました。その

中で、研究も両立させていくために、どのようにしたらよいかと試行錯誤しているときに出会ったのが、研究支援員事業でした。

その後、研究支援員事業を活用させていただくことが決定し、とても素晴らしい研究支援員が研究を手伝ってくださることになりました。現在研究支援員のおかげで、日中の時間帯、診療等で私が抜けなければならない時も研究を止めることなく続けることが出来るようになりました。そのため、研究活動も継続して行うことができるようになり、事業を利用させていただいている期間に研究論文も無事受理されました。また、少しずつ、子どもがいる生活にも慣れ、新たな仕事のスタイル確立にも本事業は寄与して頂いたと思います。

私の場合は、研究支援員事業を活用させていただいたことは、肉体的にも精神的にも大きな支えになりました。少しでも多くの同じような境遇で研究を続けることが困難な方々に、是非活用して頂きたい事業であると思います。

ニュースレター第4号 (第4面) (平成23年5月発行)

平成23年度活動予定

- 6月 ● 第2回 男女共同参画に関する管理職セミナー(15日)
● 平成23年度第1回交流サロン(22日)
- 7月 ● 第5回おかやまサイエンス・トーク(総社高校)(12日)
● 第6回おかやまサイエンス・トーク(勝山高校)(20日)
● 次世代女性研究者推進事業第1回講演会
「自然科学に魅せられて」(21日)
● 第7回おかやまサイエンス・トーク(矢掛高校)(26日)
- 8月 ● 研究スキルアップ講座(予定)
● 岡山大学オープンキャンパス参加(5日・6日)
- 9月 ● 平成23年度第2回交流サロン(予定)
● 桃太郎フォーラム参加(予定)
- 10月 ● 第8回おかやまサイエンス・トーク(岡山一宮高校)(18日)
● 研究スキルアップ講座(予定)
- 11月 ● 第3回中国四国男女共同参画シンポジウム(11日)
● 第9回おかやまサイエンス・トーク(芳泉高校)(予定)
- 12月 ● 事業総括報告会(予定)

● 第3回中国四国男女共同参画シンポジウム開催日決定

- 日時 平成23年11月11日(金)13時30分～18時30分
- 場所 岡山コンベンションセンター 1Fイベントホール
- 詳細は追ってご連絡します。

● 管理職セミナー開催

- 日時 平成23年6月15日(水)11時00分～12時00分
- 場所 本部棟第一会議室
- 講師 倉地 幸徳 氏
(九州大学理事(国際・男女共同参画担当)・副学長)

次世代女性研究者育成推進事業 第1回講演会

- 「自然科学に魅せられて」 参加無料
- 日時 平成23年7月21日(木)10時30分～12時00分
- 場所 薬学部中会議室(2号館2階)
- 講師 江口 伸子 助教 (大学院自然科学研究科 環境分子科学専攻)
御栗 真穂 助教 (大学院自然科学研究科 バイオサイエンス専攻)
三谷 奈見季 助教 (薬学植物学研究所)
- 第1期WTT教員3名が、研究者になるまでの過程や現在の教育・研究活動等について講演いたします。

編集後記

日に青葉の季節、大学構内の緑もまぶしい新緑に彩られています。時を同じくして、キャンパスにはフレッシュな1年生を迎えました。それぞれ進級した学生達も新たな気持ちで新学期に臨んでいるように感じます。男女共同参画室は、今年度から「社会人のためのプレミード」という主題科目を立ち上げました。いろいろな講師を迎えて行うこの講義が、学生のみなさんの大学生活を充実したものにする一助になればよいと思っています。

構内の高い建物からの眺めもよいですが、大学近くの半山山植物園の展望台からみる岡山市内はなかなかのものです。まだの方は一度試してみてください。

男女共同参画室員からのメッセージ

柴倉 美砂子
(岡山大学大学院保健学研究科 准教授)

保健学研究科では女性教員と男性教員は、ほぼ同数です。理想的な男女比ですが、人々の意識が変わらなければ、女性が抱える問題は減少しないと感じています。人が働きやすい社会・組織の実現に向けて、室員の方々と活動していきたいと思っています。

大山 和美
(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 助手)

昨年10月に男女共同参画室のメンバーになりました。

女性研究者支援及び次世代育成支援活動や、鹿田地区での活動や行事に、大変微力ではありますが、自身の経験を生かすことが出来るよう、これからも取り組んでいきたいと思っています。

ミニコラム データで見る岡山大学 男女共同参画の現状②

本学の事務系職員に占める女性の割合は33.9%(492名中167名)であり、教員(12.5%)と比べるとかなり高いといえます(平成23年4月1日現在)。しかしながら、職位が上がるにつれ女性の割合が段々低くなるという状況は同じようです。

女性の割合を職位別に見た場合、係員や主任等では過半数を占めているのに対し、係長級では女性は22名(14.4%)しかおらず、さらに、課長補佐・専門員等(総括主査)では5名(11.6%)、課長相当職以上では3名(6.5%)、とかなり少なくなっています。特に、係長級職員に占める女性の割合は、国立大学における平均(22.3%(平成22年4月1日時点))と比較しても、かなり見劣りする数値になっています。

平成元年に本学で初めての女性係長を登用して以来、既に20年余りが過ぎていますが、雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保に向けてまだまだ努力が必要であると言えるでしょう。

クイズ

技術技能系職員(技術職員等)80名のうち、女性は16名(18.8%)を占めています。さて、技術技能系の管理的職位につく職員(技術専門員および技術専門職員)のうち、女性は何%を占めているでしょうか。(答えは下に)

お問い合わせ

国立大学法人 岡山大学
ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL & FAX: 086-251-7011
E-mail: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp
http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo/



女性の割合 19.4%



平成21年度文部科学省科学技術振興補助費「女性研究者支援モデル育成」事業採択
文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）」
学部・岡大科 女性研究者が育つ進化プラン



岡山大学ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室

Newsletter



岡山大学ウーマン・テニュア・トラック
(WTT)教員制度

もくじ

男女共同参画室の取り組み	1
特集:岡山大学ウーマン・テニュア・トラック(WTT)教員制度	2-3
研究支援員エッセイ	3
男女共同参画室員からのメッセージ	4
お知らせ	4
女性サポート相談室だより	4
データでみる岡山大学 男女共同参画の現状③	4
編集後記	4

第2回男女共同参画に関する管理職セミナー

6月15日、「第2回男女共同参画に関する管理職セミナー」を実施しました。セミナーでは、「九州大学における男女共同参画推進の取組み」をテーマに、九州大学の男女共同参画担当理事・副学長であり、女性研究者キャリア開発センター長でもある合地幸徳氏に講演をお願いしました。当日は、61名の管理職の教員・職員が出席し、九州大学における男女共同参画の現状および推進のための取組みに関する講演に熱心に耳を傾けていただきました。時間を大幅に超過して活発な質疑応答がなされ、本学におけるこの問題への関心の深さを物語っていました。主な講演内容は次の通りです。

- 学内保育施設の設置
- 教育及び学生の研究活動への支援
- 大学改革推進経費に関するインセンティブ
- 優秀な若手人材の定着・雇用促進に関する取組
- 女性研究者の研究助成制度
- ポイント制による部局人員管理方式を活用した女性枠ポストの設定による女性教員増を目指す取組み

この管理職セミナーは、昨年を引き続き、本学の教育系および事務系の管理職員の皆を対象に行われたものです。



▲ 合地 幸徳氏
九州大学理事（副学長・匡務）男女共同参画担当



信頼を築くコミュニケーション術 ～気持ちを聴く・気持ちを話す～



市場 麻子氏
心理専門相談員・
広島大学等非常勤講師

6月22日に「信頼を築くコミュニケーション術～気持ちを聴く・気持ちを話す」と題し、平成23年度第1回交流サロンを開催しました。今回は広島大学等で非常勤講師を務めるかたわら、岡山市男女共同参画推進センター「さんかく岡山」等で心理専門相談員としてご活躍中の市場麻子先生をお招きして講演会並びにワークショップを開催しました。

ワークショップでは職場や家庭における様々な人間関係において必要とされるコミュニケーションについて学び、参加者同士で実践練習を行いました。初対面の相手との会話は、ともすると肩に力が入りがちですが、先生の歌や手話を交えての進行で、終始和やかな雰囲気漂うサロンとなりました。



ワークショップの様子

第3回メンタリングに関する勉強会 ウーマン・テニュア・トラック教員が メンタリングについて意見を交換

男女共同参画室では、本学における本格的なメンター制度の準備に向けて、平成22年12月より継続してメンタリングに関する勉強会を実施しています。

5月9日および12日に行われた「第3回メンタリングに関する勉強会」では、ウーマン・テニュア・トラック制度および異分野融合先端研究コアのテニュア・トラック教員14名が、メンタリングについて意見を交換しました。メンターとの関係を築く上での悩みや、メンターへの希望等に加えて、本学におけるテニュア・トラックを始めとする教員採用のあり方等について、率直な意見が交わされました。

メンタリングに関する勉強会の成果は桃太郎フォーラムで発表する予定です。

▶ **メンタリングとは**ギリシャ神話に登場する人名の「メンター(Mentor)」を語源とし、仕事の仕方や取り組み方、キャリアについて、より多くの経験と知識を持つ先輩(メンター)が後輩(メンティー)に指導・助言を行い支援することを指します。

男女共同参画室の取り組み

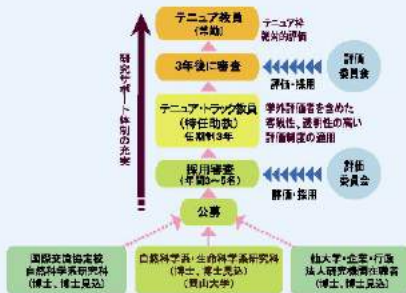
ニュースレター第5号 (第2面) (平成23年8月発行)

特集 岡山大学ウーマン・テニュ

WTT 教員制度とは

WTT教員制度とは、女性研究者を対象に3年間助教 (WTT教員) として本学に受け入れ、専門分野の近い研究科において独立した教員としての経験を積みます。評価委員会等において、テニュア教員の採用基準に達していると評価されればテニュア教員^(※)として採用される人事システムです。本学独自の教員養成システムで、平成22年4月からスタートしました。

※任期を付さない職又は国立大学法人岡山大学教員の任期に関する規則に定める再任可能な任期付きの職 (再任回数に制限がある職を除く)。



第 I 期 WTT 教員紹介 (平成22年4月1日付け採用) (五十音順)

江口 律子 助教

【所属】
大学院自然科学研究科 (理)
(理学部附属界面科学研究施設)



前左石が江口助教

【研究内容】

金属・絶縁体相転移や超伝導など興味深い物性を示す強相関酸化物や有機物質の電子状態について、放射光などを利用した様々な分光学的実験手法を用いて研究を行っています。また酸化物や有機薄膜などの試料作製やその物性についても調べています。その基礎物性をもとにして将来的に応用に活かせるような研究を目指しています。

【メッセージ】

WTT 教員に採用されて2年目となりました。1年目は新しい環境に飛び込み、これまでの研究を続けつつ新しい研究テーマにも取り組んだあつという間の1年でした。さらに慣れない教育活動もあり、立ちどまる暇もなく目の前のことをこなしてきたように思えます。2年目では少しゆとりを持って学生の皆さんと向き合い、教育や研究を頑張っていきたいと思えます。

三谷 奈見季 助教

【所属】
資源植物科学研究所



【研究内容】

植物のストレスを軽減する元素「ケイ素」はケイ酸輸送体タンパク質によって植物体内へと取り込まれます。私はこのケイ酸輸送体の発現制御機構の解明を目的に研究活動を行っています。

【メッセージ】

早いもので WTT として2年目を迎えました。1年目はあっという間に過ぎ去ってしまった印象です。今年度は WTT の任期の間で最も集中して研究や教育活動に取り組める年だと思っています。貴重な時間を有意義に使い、実りある2年目にしたいと思います。そして、多くの方に植物科学研究の楽しさを伝えられるようさらに努めて参ります。

御輿 真穂 助教

【所属】
大学院自然科学研究科 (理)
(理学部附属牛窓臨海実習所)



前列左から2番目が御輿助教

【研究内容】

脊椎動物のホルモンと生理学について、主に魚を材料に研究しています。今後は両生類から哺乳類まで、さまざまな動物のゲノム情報を利用することで、新しいホルモンや機能の発見を目指したいと思っています。

【メッセージ】

WTT 教員となって一年が過ぎ、ようやく生活のペースがつかめてきました。臨海実験所は本学とは離れた牛窓の海辺にあり、生物学科の実習に利用されますが、特に夏場は他大学の学生・高校生・共同利用の研究者など多くの人が訪れます。そうした人々から刺激を受けながら、今後を着実に自分の研究を積み重ねていきたいと考えています。

吉岡 美保 助教

【所属】
大学院自然科学研究科 (理)



【研究内容】

植物を研究対象にしています。植物にダメージを与える強い日差しや真冬の低温などを環境ストレスと呼びますが、植物は一年中何らかの環境ストレスにさらされていて、温暖化による気温の上昇も深刻な問題です。植物の光合成機構に注目し、環境ストレスが植物に与える影響と、植物が環境の変化に適応するために備えている仕組みについて明らかにしていきます。

【メッセージ】

周囲の方々に日々元気と支えをいただきながら、二年目を迎えました。昨年は高校出前授業、海外出張、他大学との共同研究など、学外での活動が充実していました。今は研究室で育てている植物 (ホウレンソウ、オジギソウ、シロイヌナズナ) の成長を見るのが毎日の楽しみです。今年は担当する授業も増えたので、より一層がんばります！

ア・トラック (WTT) 教員制度

第II期WTT教員紹介 (平成23年4月1日付け採用) (五十音順)

飯尾 友愛 助教

【所属】
大学院保健学研究科



前中央が飯尾助教

【研究内容】

アロマセラピー (芳香療法) による作用・効果をマウス気管支喘息モデルで研究しています。様々な精油の作用を科学的に実証し、アロマセラピーによるヘルスプロモーションを提案していきます。

【メッセージ】

子育てをしながら働くという初めての経験ですが、多くの方に支え助けていただきながら WTT 教員として歩み始めました。女性の多い学科でもありますので、自分の姿を見て刺激を受け1人でも多くの研究者を目指す学生が出てくれたらと思っています。その時に、今度はサポートできる立場になれるように教育・研究そして家庭・育児にも楽しみながらがんばってきたいと思っています。

宮崎 祐子 助教

【所属】
大学院環境学研究科 (農)



左から2番目が宮崎助教

【研究内容】

多くの植物は、開花・結実量が年によって変動する性質を持っています。しかし、その詳しいメカニズムについては多くのことが分かっていません。花が大量に咲くためには何が必要なのか? 咲いた花が種子になるまでの間に何が起きているのか? その問いに答えるため、遺伝子の発現パターンや個体の栄養状態、気温などを解析し、植物の繁殖メカニズムに迫る研究に取り組んでいます。

【メッセージ】

学生には、自主的に自由に学ぶことのできる大学という環境の中で、熱中できることを見つけて欲しいと思います。そして自分の研究や講義がその熱中して取り組める何かを発見するきっかけになればとても幸せです。活気に満ちた活動が多く生まれる場所になるよう、精進したいと思います。

第III期WTT教員公募情報

【職種】 特別契約職員 助教 (特任)

【教育・研究分野】

自然科学研究分野
(募集分野等の詳細は男女共同参画室ウェブサイトをご覧ください)

【採用人数】 3~5名程度 (全分野の総数)

【応募資格】 博士の学位を有する女性研究者
(2012年3月31日までに学位取得見込みの者を含む)

【応募受付期間】 2011年9月15日(木)17時まで 必着

詳細は下記URIをご覧ください。

http://www.okayama-u.ac.jp/user/jmji/diversity/danjo/wtt_bosyu.html

前田 恵 助教

【所属】
大学院自然科学研究科 (農)



【研究内容】

植物や昆虫細胞は、ヒトには存在しない、特徴的な構造の糖タンパク質糖鎖「抗原性N-グリカン」を発現しています。現在は、このような抗原性N-グリカンについて、アレルギーや抗腫瘍免疫に関わる免疫調節作用を明らかにすることを目的に研究を行っています。

【メッセージ】

学位取得後、川崎医科大学衛生学教室にて5年間、適や自己免疫疾患を誘発する環境因子 (主にアスベストやシリカ) について免疫系への影響を研究しておりました。この度、WTT 教員として母校に戻りましたので「糖鎖免疫学」について研究を進めると共に、教育にも貢献していきたいと思っています。研究室では、皆でお花見に行き、男子学生が手作りのお弁当を作ってきてくれました。女性教員が珍しい時代はあっという間に過ぎていくのでは???



研究支援員エッセイ 分身の術

プロフィール

橋 豊嗣さん

現在育児中の三木直子先生の
研究支援員としてご活躍中



石から三木先生、研究支援員の小笠さん、橋さん。

女性教員は、出産、育児など家庭や社会に対する女性特有の役割を担っており、教育・研究と家庭の両立が非常に難しい時期があります。こうした状況で継続的に研究を行う上で、研究支援員による実験やデータ解析などのサポートは非常に有用であるといえます。教員の研究計画を理解し、連絡を密に行い、円滑に研究が行われた場合には、まるで女性研究員は分身の術が使えぬ忍、支援員は、その分身のようです。

森林では、養分や水分など生育条件は、林分構成や微地形などによって異なります。自ら移動できず生育環境を自由に選択できないアカマツは、なぜ多様な条件下で生育が可能なのか? 水分や養分の違いはアカマツの組織構造や生理機能をどのように変化させているのか? 私は、三木先生のこの研究テーマに関連して、異なる養分条件下で生育させたアカマツの透水器官の構造および機能についての研究支援を行ってきました。実験がうまく進まず諦めなくなる時もありましたが、先生から上へ向かう力をいただきました。困難な状況下でも現状を分析して新たに実験を積み重ねていくことの大切さ、どのようにデータを蓄積していくべきか、実験の切り口をどうするかといったことを学びました。これらは私の研究者の夢を追いかける力になっています。

先生との研究ディスカッションは最も楽しいものです。私は目前の結果を集中的に考えますが、先生は広い視野で全体の関係性を導き出します。研究支援を通じ、教員と支援員それぞれの立場を超えて、相互に発展し合うことができるすばらしさを感じます。

ニュースレター第5号 (第4面) (平成23年8月発行)

男女共同参画室員からのメッセージ

岸本 昭
(岡山大学大学院
自然科学研究科 (工) 教授)



5月から室員となりました岸本です。工学部では入学者に対する女子の割合が少なく、博士前期、後期となるにつれ更に加速して少なくなっています。就職において企業の理解を求めつつ、入学者・進学者中の女性割合を増やす道筋を探っていきたくと考えています。

お知らせ

女子学生の方へ

● 「(社)大学女性協会国内奨学生」募集中

募集種別 一般奨学生・社会福祉奨学生・安井医学奨学生
応募資格 女子学生<詳細条件は募集種別により異なる>
募集要項は(社)大学女性協会HP【<http://www.jauw.org/>】をご覧ください。
照会及び書類の提出先 学務部学生支援課 (一般教養棟A棟2階)

男女共同参画室HPではこの他にも女性研究者向け研究助成等の公募情報を紹介しています。

● 平成23年度第1回研究スキルアップ講座
研究力3倍増強計画～個性を知れば学会賞が取れる～

講師 塚本 真也 教授 (岡山大学大学院自然科学研究科 (工))
日時 平成23年9月5日 (月) **場所** 旧事務局庁舎 2F会議室
対象 岡山大学の教職員対象

● 第2回研究支援員事業に関する意見交換会 10月実施予定

研究支援員事業利用者以外の方も歓迎いたします。詳しくは男女共同参画室までお問い合わせください。

2011年岡山大学オープンキャンパスに参加します
「理系の魅力 女子高生の皆さんへ」

日時 平成23年8月5日 (金)・6日 (土)
11時00分～16時00分
場所 岡山大学総合案内センター (大学会館) 喫茶コーナー

理系 (理学・工学・農学・環境理工学・薬学・保健学) の現役大学生や大学院に進学した院生の皆さんが理系の面白さを伝えます。学生生活や大学での研究について、少しだけ先輩の女子大学生・大学院生になんでも気軽に聞いてみよう!

編集後記

大学構内の緑も深くなり、すでに夏真っ盛りです。6月に400近い直量を記録するなど、今年の暑さのペースは想定外でしょう。この暑さの中で学生、教職員はそれぞれの持ち場で、最速なワークライフバランスに配慮した生活を目指して頑張りたいと思います。男女共同参画室では、そのような人々の支援も積極的に行っています。本紙面で紹介しているSWIT教員に対する研究面、精神面での支援、管理職の方々の意識啓発などです。岡山大学構内にはたくさんの大きな木が並び、涼を供給してくれています。木陰を通る時にすっと涼しさを感じた人も多いと思います。ワークライフバランスを保つためにも、何時もバックアップしたいです。時には自然の風に涼を求めるエコな時間を過ごしてみませんか。東西道路沿いの畔木川(さすの川)に沿って遊歩道は必ずしもクールスポットです。

女性サポート相談室だより



第6回キャリアカフェ

6月29日 (水) 医学部記念会館にて、鹿田地区の女性教職員を対象にしたキャリアカフェを開催しました。今回もお昼休みの時間を使い、ランチを食べながら楽しくおしゃべりをしました。参加して下さった方々は、1歳児から高校生まで幅広い年代の子どもさんを育てるママさんたちだったので、お互いに子育ての大変さを共有することができました。また、周辺保育園や幼稚園についての話題にも花が咲き、参加者から「とても参考になる情報もらった」と感想をいただきました。

昨年からはじめたキャリアカフェも6回目となり、鹿田地区・津島地区それぞれに働くママ友の輪が広がっているように感じています。今後も、こうした活動を継続していきたいと思っていますので、興味のある方は是非ご参加ください!

津島地区相談日変更のお知らせ

7月より、津島地区の相談日をこれまでの水曜・金曜から、火曜・金曜日に変更いたしました。相談時間は同じ10時から16時です。皆さまにはご迷惑をおかけしますが、どうぞご理解の程宜しくお願いします。

ミニコラム データで見る岡山大学 男女共同参画の現状③

大半の大学教員にとって、「研究」は職務における最大の関心事でしょう。『岡山大学の男女共同参画に関するアンケート調査報告』(平成21年秋実施)で、岡山大学で研究・教育をする上での問題点について尋ねたところ、11項目中最も多かったのは「研究のための時間が十分に確保できない」(71.0%)でした。他にも、教育(49.1%)や家族(47.8%)のための時間が十分に確保できない、体力的にきつい時がある(57.6%)、あるいは研究や実験の拘束時間が長い(30.3%)との回答が多く、本学の教員が時間に追われて生活していることがうかがえます。

なお、男女別に見たところ、女性教員において「研究室の雰囲気が男性あるいは女性中心でなじめないことがある」、「困ったときに気軽に相談できる同性が身近にいない」と答える回答者の割合が高くなっていました。

これは、大学院生の場合も同じで、女性研究者が少ない現在の研究環境を問題に感じている女性が少なくないことがわかります。

クイズ 大学院生に岡山大学で研究をする上の問題点について尋ねてみました。最も多かった問題点は何でしょうか?

(答えは下に)

お問い合わせ

国立大学法人 岡山大学
ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室



〒700-8530 岡山県岡山市北区沖島中一丁目1番1号
TEL & FAX: 086-251-7011
E-mail: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/ijj/du/diversity/danjo/>



女性の答え: 「体力的にきつい時がある」(46.2%)

ニュースレター第6号(第1面) (平成23年11月発行)

第6号
2011.11



平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業採択
文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業(女性研究者支援モデル育成)」
学部・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン
岡山大学ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室



男女共同参画

Newsletter

特集 次世代女性研究者育成推進事業

Dec. 15th 第2回メンタリングに関するセミナー

日時 平成23年12月15日(木) **場所** 岡山大学本部棟6階第1会議室
10:00~12:00

若手教員を対象としたメンタープログラムを整備している名古屋大学から講師をお招きして、セミナーを開催します。パネリストとして参加する本学の若手教員およびベテラン教員と共に、皆さんもメンタリングについて考えてみませんか。

講師
中井 俊樹 氏
(名古屋大学高等教育研究センター准教授)

メンタリングに関する取組状況のご報告

テニユア・トラック教員(ウーマン・テニユア・トラック制度および異分野融合先端研究コア)とそのメンターによる第1回メンター・メンティー交流会(7月28日実施)では、外部資金獲得、研究室での学生の指導、仕事と私生活のバランス、出版、授業といったテーマについて意見を交換しました。



また、平成23年度岡山大学全学教員研修「桃太郎フォーラムXIV」(9月9日実施)の第3分科会「新任教職員に対するFD・SD:メンタリングのコツ」では2つの話題提供を行い、学内外の参加者の間で、新任教員のメンタリングを行うにあたって教職員それぞれができること、制度として必要なことなどについて意見を述べていただきました。

もくじ

- イベントのお知らせ..... 1
- 特集:次世代女性研究者育成推進事業..... 2
- 男女共同参画室の取組み..... 3
- 研究支援員事業利用者エッセイ..... 4
- 女性サポート相談室だより..... 4
- データでみる岡山大学 男女共同参画の現状④..... 4
- 編集後記..... 4

Dec. 20th 学部・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン
事業総括報告会

日時 平成23年12月20日(火) 14:30~16:30
場所 岡山大学創立五十周年記念館

平成21年度より3年間の予定で実施してきた「学部・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」もいよいよ終わりに近づいてきました。事業総括報告会では、男女共同参画室員が事業成果について報告し、「男女共同参画は誰が行ってるの?」「WTT制度って一体どうなったの?」「大学は女性が働きやすい大学になったの?」「来年度以降はどうなるの?」といった皆様の疑問にお答えします。
なお、当日はWTT教員および研究支援員事業利用者による発表もあります。来年度以降に向けて、女性研究者支援のあり方を一緒に考えましょう。

Nov. 11th 「第3回中国四国男女共同参画シンポジウム」
女性研究者が活躍する大学
~支援ネットワークの強化を目指して~

日時 平成23年11月11日(金) 13:30~17:50
場所 岡山コンベンションセンター 1Fイベントホール

中国・四国地区においては、2年前から中国四国男女共同参画シンポジウムが地区内大学の持ち回りで開催されています。本学が主催する今回は、文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課による「特別講演」、鈴山雅子氏(三重大学男女共同参画コーディネーター)による「基調講演」に加え、地区内の大学・行政機関が女性研究者支援の状況を口頭およびポスターで発表します。さらに、中国・四国地区国立大学による男女共同参画推進のための共同宣言文を発表する予定です。皆様の参加をお待ちしております。



イベントのお知らせ

ニュースレター第6号(第2面) (平成23年11月発行)

特集 次世代女性研究者育成推進事業

高校生・中学生対象

体験・科学のおもしろさ

おかやまサイエンス・トーク

岡山大学ウーマン・デベロップメント・トラック(WTT)教員と大学院生が理系分野の研究紹介を通して、中・高校生に“科学のおもしろさ”、“科学の神秘・深遠さ”を伝え、理系分野への興味を深めることを期待して「おかやまサイエンス・トーク」を実施しています。

平成22年度から開始した本事業は、これまで岡山県内の高校・中学校を対象に9回実施しています。事前に打ち合わせや研究紹介の練習会を行うなど準備にも力を入れています。



研究紹介

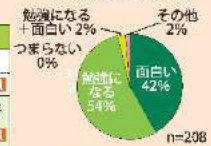


高校生からの質問

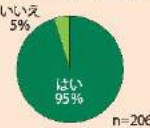
アンケート結果

(平成22年度参加生徒対象)

内容についての印象



このような機会があればまた参加したいですか?



平成23年度の実施内容

開催	研究紹介タイトル	研究紹介者
県立錦社高校 (平成22年7月)	「季節を知る生物」	玉木 沙織 大学院自然科学研究科 博士前期課程1年
	「生命を支える輪軸」	前田 惠 大学院自然科学研究科(農)特任助教 WTT教員
県立岡山高校 (平成22年7月)	「CPGIによる4脚歩行ロボットの歩容生成」	西阪 麻衣子 大学院自然科学研究科 博士前期課程2年
	「生物の行動を支配するホルモン、その進化」	御興 真緒 大学院自然科学研究科(理)特任助教 WTT教員
県立矢野高校 (平成22年7月)	「生物の行動と体内時計」	花房 志保 大学院自然科学研究科 博士前期課程1年
	「電子の動きを探って物質の性質を見よう、変えよう」	江口 隼子 大学院自然科学研究科(理)特任助教 WTT教員
岡山大学教育学部附属中学校 (平成22年9月)	「ぜんそく重症度の簡易検査キット」	兵田 朋子 大学院保健学研究科 博士前期課程2年
	「光合成の研究」	吉岡 美保 大学院自然科学研究科(理)特任助教 WTT教員
県立岡山一宮高校 (平成22年10月)	「ヤマドリウの発がん予防効果について」	藤井 奈々 大学院医歯薬学総合研究科 博士前期課程2年
	「数の樹木の創作と凶作: 開花・結実のメカニズムと次世代の残し方」	宮崎 祐子 大学院自然科学研究科(農)特任助教 WTT教員

高校生対象

2011年岡山大学オープンキャンパス参加企画

理系の魅力 女子高生のみねさんへ(8月5日・6日開催)

理系の女子学部生、大学院生12名がフリー・トーキングおよび研究紹介がスターの展示・説明を行い、高校生に理系のおもしろさ、魅力を伝えました。また、事前に協力学生同士が自己紹介をする機会を設け、専門分野や学年等の異なる学生同士の交流を通して、協力学生に対しても視野を広げる機会を提供することが出来ました。



フリー・トーキングの様子
207名の高校生・保護者が参加しました。

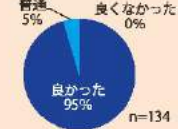
協力院生・学部生

- 理学系: 助田 さやかさん【学部生】
- 農学系: 太田 奈緒子さん【院生】
- 保健学系: 兵田 朋子さん【院生】
- 薬学系: 藤井 奈々さん【院生】
- 工学系: 内山 友世さん【学部生】 / 高本 敬子さん【学部生】
- 工学系: 藤野 敬子さん【院生】 / 西阪 麻衣子さん【院生】
- 工学系: 舟橋 真衣香さん【院生】 / 本村 遥子さん【院生】
- 工学系: 内田 春香さん【学部生】 / 仁内 実利さん【学部生】

アンケート結果

(平成22年度参加生徒対象)

「理系の魅力 女子高生のみねさんへ」ローナーはいかがでしたか?



学部生のあなたに

男女共同参画の視点にたったキャリア教育の試み

男女共同参画室では、平成23年度前期より教養教育科目を開講しています。初年度は、教育学部、法学部、工学部の学生を中心とする37名が単位を取得しました。予想に反して男性が受講生の過半数を占める結果となりました。受講生からは「女性が働くことも大切だと思った。」「色々な生き方があることが分かった」などの感想をいただいています。WTT教員を始めとする多様な背景を持つ講師の話や、ほぼ毎回1,000字のレポート作成、グループ討論、そして周りの「大人」へのインタビューを基にレポート作成・発表を通して、受講生の皆さんが自らのライフスタイルについて考えるお手伝いが出来たのであれば幸いです。

なお、講義の一環として、7月21日には次世代女性研究者育成推進事業第1回講演会「自然科学に魅せられて」を開催しました。受講生以外にも、女子大学院生や教員が参加し、WTT教員の研究内容や研究者になった過程等について講演を聞き、将来について気になっていることを語りあいました。

平成24年度は、より専門職志向を強めて「プロフェッショナルを目指すあなたへ: 男女共同参画社会のライフ・デザイン」と講義名称を変更して開講する予定です。



男女共同参画室の取り組み

岡山大学人材登録バンクを活用した研究支援員事業の実施—最近の動き—

「進化プラン」で実施している研究支援員事業では、出産・育児・介護等の理由により仕事と家庭の両立が難しい理系の女性教員に対して、研究補助業務に従事する研究支援員を配置してきました。



利用対象の拡大

制度改正により、女性教員であれば誰でも分野を問わず研究支援員事業を利用できるようになりました。男性教員も、配偶者が大学等の研究者である場合には利用できます。平成23年度の募集は終わりましたが、今後の利用をご検討ください。なお、平成23年10月1日現在、7名の女性教員が研究支援員事業を利用しています。

岡山大学人材登録バンクの充実

研究支援員の仕事について

研究支援員事業に必要な優秀な人材を確保するため、岡山大学では人材登録バンクを整備しています。平成23年度には、研究支援員の方々のご協力を待って登録説明会を計4回実施し、登録者数が大幅に拡大しました。最近では、育児や介護等で忙しい女性教員が、自身の研究費等により研究補助者を雇用する際にも利用いただいています。今後は利用対象を男性教員にも拡大していく予定です。

意見交換会の実施

「進化プラン」終了後の研究支援員事業について、研究支援員事業利用者を始めとする学内外の方々のご意見をうかがうため、研究支援員事業に関する意見交換会を2回実施しました。意見交換会では、男女共同参画室員が事業の現状について報告するとともに、利用者が研究生活の現状や事業に関する意見を発表しました。また、グループによる討論を通して、「なぜ利用期間は6ヶ月間なのか?」、「男性にも利用を認めるべきではないか。」といった質問・意見が出されました。



意見交換会

岡山大学人材登録バンクとは

女性教員の研究活動を支援するために必要な人材(研究支援者候補)に関する情報を収集し、研究支援を希望する女性教員に情報を提供することを目的として設置されたものです。人材登録バンク自体は、研究支援員事業の利用とは関係なく、ご自分の研究費等によりご利用いただけます。ご利用を希望される方は男女共同参画室までご相談ください。(内線：津島7016)

研究スキルアップ講座

男女共同参画室では、研究活動を遂行する上で共通に必要な知識やスキルの向上を目指した研究スキルアップ講座を実施しています。男女に関係なく、また研究者として様々な段階にある方に参加していただいています。

「研究力3倍増強計画 平成23年度第1回 ～個性を知れば学会賞が取れる～」

大学院自然科学研究科(工)の塚本真也教授を講師に迎えて、9月5日に旧事務局庁舎で実施しました。塚本教授のご著書『個性判定～個性を知れば良い対人関係が築ける～』に基づき、5つの基本個性(独裁者、夢探検人、技職人、親切の達人、正義の人)について具体的な例を交えながら説明を受けた後、基本個性毎にグループに分かれて議論しました。

平成23年度第2回

「国際救助隊サンダーバード構想： 構想・実績があれば予算は後からついてくる!？」



テレビ局も取材に

京都大学工学研究科の松野文俊教授をお招きし、10月14日に工学部で実施しました。自然科学系教員および工学部生を中心に大勢の参加がありました。参加者は、知能ロボット等が専門の松野先生のこれまでの研究生活についてお話を聞き、「行動力が必要だ」とのメッセージに納得したようでした。当日は、大学院自然科学研究科(工)の亀川哲志講師にも、研究費獲得や共同研究の経験についてご講演いただきました。

平成23年度第2回交流サロン

医療従事者として生きるということ



10月21日に大学院保健学研究科、医療人キャリアセンターMUSCATとの共催で平成23年度第2回交流サロンを開催しました。

今回は「医療従事者として生きるということ」と題し、医療従事者が知っておきたいことについて、近い将来医療従事者となる学生と教員、医療従事者、患者等、様々な立場の方が語り合う場を提供しました。

34名のみなさんに参加していただき、「女性が育児をしながら働くということについて」、「なぜ医療系学部を選んだのか」、「医療従事者として働く中で生じる仕事への意識変化」などについて様々な意見を出し合う事ができました。特に、10年後の医療に期待する事については、「日本だけでなく世界においても医療へのアクセスがより円滑になるように」、「コメディカルの予防医学への進出を期待する」、「医療技術が進む中においても人が対象である限り「心」を忘れないでほしい」といった意見が出されました。サロンの終わりに、参加者からいただいたアンケートには、「多くの方がコミュニケーションの必要性を強く感じていたことが印象的だった」などの感想が寄せられました。

交流サロンとは

男女共同参画推進に関する情報の共有化や意識の啓発・改革が一層進むことを目指して、平成21年度から継続して実施しています。具体的には男女共同参画推進に関する話題について、少人数のグループで参加者同士がざっくばらんに意見を話し合い、その内容を全体に披露することで認識を深めています。

ニュースレター第6号 (第4面) (平成23年11月発行)

研究支援員事業 利用者エッセイ

プロフィール
畑中 加珠 助教
大学院応用薬学総合研究科
産薬化学分野

私は、平成22年3月から研究支援員事業を利用しています。臨床系の講座に属しているため、大学院時代から研究の時間は夕方以降や休日という生活スタイルでした。時間の隙間なく自分の都合で好きなように計画して行っていたことが、今では懐かしく思い返されます。

一人目出産後、自身での基礎研究は継続が難しくなり、主に臨床研究に携わるようになりました。それでも、大学に居られる時間には制限があるため、夕方に慌しく帰っていく、事務的な仕事を持ち帰るというような毎日でした。二人目出産復帰後しばらくして、この事業に声をかけていただき、二名の支援員に手伝ってもらっています。人材登録バンクの設置前だったので、大学院生と研究生をお願いをし、現在では彼らを手放すことができません。お陰様で、大学院生の支援により科学研究費をいただいていた基礎研究の結果を出すことができました。研究生の支援により臨床研究も滞りなく進んでいます。同じ女性ということもあり、精神的にも大きな支えになっています。現在の生活があるのは、教授をはじめ理解ある医局員と、時には時間を気にせず仕事をさせてもらえる両親や家族の協力があるからです。この場を借りて、感謝申し上げます。

教育学部は、教員の3割強、学部学生の6割弱が女性と多くなってきています。女性が働きやすい環境整備の一つとして、研究活動のサポートは有り難いと思います。今後、女性教員のみならず、もっと視野を広げていってもらえたらと思うところです。育児や介護は、24時間365日休みがなく長期戦となります。研究との両立に悩んでおられる方は、研究支援員事業を上手に活用して、心身ともに病まないで欲しいなと願っています。

女性サポート相談室だより

第7回キャリアカフェ

9月9日(金) 旧事務局庁舎2階にて、津島地区の女性教職員を対象にしたキャリアカフェを開催しました。

参加者の内、正規職員の女性からは仕事量に対する悩みを、非常勤職員は、雇用そのものへの不安や孤立しやすい職場環境などが意見として上がり、雇用形態によって仕事に関する悩みが大きく異なることが明らかになりました。一方で、「夫に家事を頼みにくい」「夫に家事を頼んでもすぐにはしてくれない」といった意見には多数が賛同し、参加者共通の思いであることがわかりました。最後に、「自分の夫にいくら言っても聞いてくれないから、他人の妻から聞いてくれたら聞いてくれるのでは」といった意見が出され、会場の笑いを誘っていました。いつも、お昼休みを使って開催しているため、薪が盛り上がりつつも中断しなければならず、終了後にはもっと話したかったという感想が寄せられました。

DV防止講演会「DVの被害者・加害者にならないために」
岡山県男女共同参画推進センター・本学学生支援センター学生相談室との共催でDV防止講演会を実施することになりました。参加は無料ですので、気軽にご参加ください。

日時：平成23年11月25日(金) 13:00~14:00
場所：一般教育棟B棟B32
講演：「DVの被害者・加害者にならないために」
講師：貝原 己代子(NPOさんかかけ理事長)
お問い合わせ先：学生相談室(251-7169)

申し込み 不要

ミニコラム データで見る岡山大学 男女共同参画の現状④

近年、「理工系離れ(理系離れ)」が問題となっています。男女共同参画室が中高生に科学の魅力を伝えるために実施している「おかやまサイエンス・トーク」に加え、本学では「科学Tryアングル」、「先取りプロジェクト研究を中心とするフロンティアサイエンティスト育成プログラム」等の取組を積極的に進めています。

大学で理系の学部を選択する女子の割合が低いという事はよく知られていますが、本学ではどうでしょうか？平成23年度、本学への入学者全体のうち、女子は41.4%を占めていました。学部別に見た場合、文学部や教育学部では女子が7割程度を占めているのに対し、理学部(26.9%)、工学部(14.1%)、環境理工学部(15.5%)という自然科学系の3つの学部ではいずれも女子の割合が3割以下と極端に低くなっており、本学も例外ではないことが分かります。

クイズ 平成23年度の入学における男女の割合が1:1に最も近かったのはどの学部でしょうか？

お知らせ

内閣府平成23年度地域における
男女共同参画連携支援事業

シンポジウム 「性犯罪被害の根絶を目指して」

入場無料

日時 平成23年11月30日(水)13時30分~16時00分
場所 ルネスホール(岡山市北区内山下、電停「東庁通り」そば)
基調講演 「性犯罪対策の課題-性犯罪者の再犯防止と社会の安全」
講師：太田 達也氏(慶応義塾大学法学部教授)
その他、アンケート調査「性犯罪被害の実態と支援施策」に関する認識の報告も行います。

お申し込み 社団法人被害者サポートセンターおかやま(VSQC)
電話/FAX (086) 223-5564

岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室は、連携団体として上記事業に参加しています。

編集後記

猛暑が続いたのがおぼろげな記憶のようなさわやかな季節です。後期の講義が始まって、キャンパスには活気が戻ってきました。1年生も大学生らしくなってきましたが、前期の成果を振り返って再出発の時です。改めて勉学にサークル活動に励んでほしいと思います。次のイベントは大学祭でしょうか。男女共同参画室では理系の女子学生の増加をめざす活動をしています。本室前で紹介しているオープンキャンパスでは多くの未来の大学生に対して活動を紹介します。また、WIT教員を中心に高校への出張講義も行っています。これらの成果が出てくるのが楽しみです。岡山には紅葉の素晴らしい場所がたくさんありますが、岡山大学には紅葉狩りに行くだけでも十分楽しめます。農学部の銀杏並木、南北道路の銀杏と図書館前のタイムワープは黄色と赤のコントラストが素晴らしいです。ちょっと足を伸ばして運動公園もおすすです。

お問い合わせ

国立大学法人 岡山大学
ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL & FAX: 086-251-7011
E-mail: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp
http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinju/diversity/danjo/

※本ページの著作権は岡山大学にあり、複製・転載を禁じます。お問い合わせ先：男女共同参画室

ニュースレター第7号（第1面）（平成23年2月発行）

第7号
2012.2



平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業採択
文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）」
学部・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン
岡山大学ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室



Newsletter

特集 中国四国地区大学との連携

学部・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン 事業総括報告会

日時 平成23年12月20日(火) 14:30～16:30
場所 岡山大学創立五十周年記念館

「学部・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」終了を間近に控え、学内に事業の実施状況を報告するため、平成23年12月20日に事業総括報告会を開催しました。

当日は、森田潔学長を始めとして、平成23年度に設置したダイバーシティ推進委員会のメンバーである研究科長や学部長も多数参加され、盛況のうちに報告会を実施しました。

事業を担当してきた沖陽子男女共同参画室長からの全体報告の後、詳細な報告が部門長等から行われました。また、研究支援員事業利用者やWTT教員も各々の研究活動について発表しました。

パネル・ディスカッションでは、研究支援員事業やメンター事業の実施状況や、WTT教員の待遇等について、数多くの質問があり、参加者の女性研究者支援事業への関心の高さがうかがえました。

もくじ

- 男女共同参画室の取組み…………… 1
- 特集：中国・四国地区大学との協働…………… 2
- お知らせ…………… 3
- 研究支援員事業利用者エッセイ…………… 4
- 女性サポート相談室だより…………… 4
- データでみる岡山大学 男女共同参画の現状⑤…………… 4
- 編集後記…………… 4




大学教員にメンターは必要ですか？
第2回メンタリングに関するセミナー
「大学教員にとってのメンタリングの意義」

日時 平成23年12月15日(木) 10:00～12:00
場所 岡山大学本部棟6階第1会議室

平成23年12月15日、名古屋大学より中井俊樹氏(高等教育研究センター准教授・男女共同参画室員)を講師に迎え、第2回メンタリングに関するセミナー「大学教員にとってのメンタリング実践」を開催しました。中井氏からは、名古屋大学で実施されている新任教員を対象としたメンタープログラムの概要や実施の背景に加え、プログラムの運用や参加教員を対象としたアンケート結果についても講演していただきました。

講演後のパネル・ディスカッションでは、本学教員4名が、日頃のメンタリング実践状況について報告した後、新任教員の成長にとってメンターが果たす役割や、大学におけるメンタリング・プログラムの必要性について議論しました。当日は、許理事を始め、フロアからの意見や質問もあり、活発な議論が行われました。




男女共同参画室の取組み

ニュースレター第7号（第2面） （平成23年2月発行）

特集 中国四国地区大学との協働

第3回中国四国男女共同参画シンポジウム

女性研究者が活躍する大学～支援ネットワークの強化を目指して～

11月11日に「第3回中国四国男女共同参画シンポジウム」を岡山大学の主催で開催しました。本シンポジウムは、中国四国地区における女性研究者支援を推進し、地方の活性化につなげていく意識の共有を目指して平成21年度より毎年開催されているものです。

第3回となる今回は中国四国地区の大学、岡山県、岡山市の担当者など約100人にご参加いただきました。特別講演には板倉周一郎 文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課長をお迎えし、「女性研究者の現状と中国四国地区大学への期待」と題して講演いただきました。引き続き、基調講演として鈴木雅子氏（三重大学男女共同参画コーディネーター）に「女性研究者支援ネットワーク構築の現状と課題：三重県における事例報告」をテーマにご講演いただきました。続いて各大学と岡山県からの取組事例の紹介、ポスター・セッションが行われ、その後のパネルディスカッションでは、沖陽子 岡山大学男女共同参画室長がコーディネーターとなり、地域、大学間連携の可能性などについて意見交換を行いました。

最後に、中国四国地区の国立10大学の学長を代表し、森田潔岡山大学学長から、「中国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言」が行われました。



「男女共同参画における中国・四国地区 大学間連携に関する検討会議」を開催

シンポジウム開催日と同日、中国・四国地区国立大学の男女共同参画関係者で検討会議を開催し、大学間における連携のあり方などについて意見交換しました。今後は、対象を国立大学以外にも広げ、年1回のペースで継続して開催することとなりました。



中国・四国地区国立大学の 男女共同参画推進のための共同宣言

中国・四国地区の国立10大学は、男女共同参画社会の実現を目指して、「中国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言」を行いました。本宣言文は9月27日開催の平成23年度秋季中国・四国地区国立大学長会議で協議・承認され、第3回中国四国男女共同参画シンポジウムにおいて森田潔岡山大学学長が代表して宣言しました。

我が国の大学においては、近年、男女共同参画のためのさまざまな取組みが推進されています。本学においても、平成21年度に文部科学省科学技術振興調整費 女性研究者支援モデル育成事業に「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」が採択されて以来、ダイバーシティ推進本部男女共同参画室を中心に取組を推進してきました。

本宣言文では、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、鳴門教育、香川、愛媛、高知の10大学が、男女共同参画に関する特徴ある取組みを継続し、一層発展させていくとともに、以下の5項目の実行を謳っています。

- 大学構成員の女性比率の向上に努め、かつ意思決定過程への女性の参画機会を拡大すること
- 大学構成員がもてる資質・能力を最大限発揮できる教育・研究及び就労環境を整備・充実すること
- 男女共同参画の視点に立った人材育成を推進すること
- 男女共同参画社会実現への取組において、シンポジウム等を継続開催し、地域との協力・協働を進めること
- 男女共同参画社会実現に向けて、地区内での大学間の相互交流と連携を一層深化させること

共同宣言の全文は以下の URL をご覧ください。

http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/up_load_files/pdf/111111danjo_sengen.pdf

お知らせ

子育てや介護で頑張っているあなたへ

本学の研究支援員事業では、出産・育児・介護等の理由により仕事と家庭の両立が難しい女性教員に対して、実験補助やデータ整理等を行う研究支援員を配置しています。研究支援員事業は元々、理系の女性教員を対象とした制度でしたが、平成23年10月に女性であれば分野を問わず誰でも利用できるような制度を改正した結果、現在は、文系の女性教員2名を含む9名が本事業を利用しています。

平成24年度からは、本学独自の事業として、以下のとおり更に改正を加えて実施していく予定です。出産、育児中の女性の方だけでなく、ご自身が主として育児、介護を行っている男性もご利用できますので検討下さい。

主な
改正点

- 男女を問わず利用可能
- 週あたりの利用時間が10時間以下の場合は、継続して1年間利用可能
ただし、利用は3回まで。

また、産前産後の休暇および育児休業中に非常勤講師を雇用できる代替要員制度やベビーシッター育児支援事業の利用もご検討ください。(問い合わせは人事課ダイバーシティグループへ(内線:7303))。

【代替要員制度】

教員が産前産後の休暇および育児休業により一月以上休む場合には、前期または後期を単位として、教育上必要最小限の非常勤講師を雇用することができます。

【ベビーシッター育児支援事業】

就労のために自宅でベビーシッターを利用する際には、「ベビーシッター育児支援事業割引券」(1日1,700円の補助)が利用できます。

News

研究支援員事業利用者の菅原康代助教(大学院医歯薬学総合研究科)が第70回日本矯正歯科学会大会&第4回国際会議で「学術大会優秀発表賞」を受賞されました。(発表内容:「マウス大腿骨中の三次元骨細胞ネットワークは外部環境によって変化する」)

WTT教員制

テニュアトラック普及・定着事業に採択

岡山大学ウーマン・テニュア・トラック(WTT)教員制度は平成23年度文部科学省科学技術人材育成補助金「テニュアトラック普及・定着事業(機関選抜型)」に採択されました。これにより、第I期および第II期WTT教員、並びに第III期WTT教員(平成24年4月1日採用)の研究費が支援されることになりました。

さらに、機関選抜型に採用されたテニュアトラック教員の中から、特に優秀な者が選抜、上乘せ支援される「テニュアトラック普及・定着事業(個人選抜型)」に、WTT教員のうち、5名が採択されました。

テニュア・トラック普及・定着事業の詳細は、下記URLをご覧ください。
<http://www.jst.go.jp/tenure/index.html>

学部・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン

活動紹介と新たな事業展開を目指しての発行

文部科学省科学技術人材育成補助金「女性研究者研究活動支援事業(女性研究者支援モデル育成)」である「学部・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」の3月での終了に伴い、現在、次年度以降の事業展開に資するための冊子を鋭意制作中です(3月発行予定)。ご希望の方は是非ご連絡ください。4月から新しいスタートする岡大独自の事業に向けて、忌憚のないご意見をお待ちしております。

第三者評価の実施

「学部・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」事業の達成状況を把握し、本事業の実施および事業終了後の取組みの参考とするために、平成23年に学内・学外の評価委員、それぞれ2名からなる評価委員会による第三者評価を実施しています。9月には中間評価を受けました。また、事業終了を控えた3月には最終評価を受ける予定です。

第2回 岡山MUSCATフォーラム

輝く! 女性医療人キャリアサポート

いまを生きる
求められる医療人の力

岡山大学医療人キャリアセンターMUSCATの活動の一環として11月26日に開催された「第2回岡山MUSCATフォーラム」を共催しました。



ご案内

若者のためのライフデザイン支援講演会

宇宙への夢を追いかけて
~人生の選択と決断~

日時 2012年2月14日(火)13:00-15:00

場所 岡山大学創立五十周年記念館

対象: 学生・若者・一般の方 [どなたでも参加できます]

お問い合わせ先: 岡山大学学生支援センター学生相談室

TEL 086-251-7169

講師 山崎 大地(やまざき たいち)氏

主催 岡山大学学生支援センター
岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
〈岡山県若者のためのライフデザイン支援事業〉

申込不要

入場無料

ニュースレター第7号 (第4面) (平成23年2月発行)

研究支援員事業 利用者エッセイ

プロフィール
松本直子 准教授
大学院社会文化科学研究科



これまで理系のみを対象としていた研究支援事業が、文系にも拡大されると聞き、さっそく応募させていただきました。文系の研究は、理系ほど時間的な拘束が強くないと思われがちですが、やはり基礎的な資料収集や分析作業には時間と労力がかかります。教育やアドミニストレーションに費やす時間が増加傾向にあるため、ただでさえ研究にかけられる時間が減少しているのに加え、夕方6時までには保育園に2人の娘を迎えにいかなければなりません。幼い子たちの相手をするため、自宅でもほとんど仕事ができないという状況では、研究を進めるのは至難の業と感じていました。

今回支援員の方2人に手伝っていただけることになり、その心配は解消されました。現在科研費を取得している研究は、コンピュータによるシミュレーションを何度も繰り返してデータを取る必要があるもので、そのための時間を確保するのは絶望的かと思っていたのですが、情報科学を専門とする学生さんに専門の知識を生かして熱心に作業をしていただき、研究も軌道に乗ってきました。

研究が順調に進められると、子どもに対してもゆったりと接することができます。毎日ばたばたしていることには変わりありませんが、研究活動がままならないことによるストレスが軽減されるので、心に余裕ができるのです。こうした支援が、今後も継続し、次世代を育成することと研究活動とが両立しやすい大学であり続けることを望みます。

研究支援員からのコメント
「自分の学部では学ぶことのできない知識を得ることができ、他学部との研究での繋がりを実感しました。」

女性サポート相談室だより

第8回キャリアカフェ

キャリアカフェは、これまで本部棟で開催してきましたが、「場所が遠くて参加できない」とのご要望にお応えし、今回は環境理工学部で行いました。当日は、工学部と環境理工学部所属する女性教職員が参加し、女性のキャリア形成と家庭の両立について話し合いました。参加者の中で、夫の仕事の都合により自分のキャリアを一時的に中断せざるを得なくなった女性研究者に対し、他の参加メンバーからは励ましやアドバイスがなされました。今回、男女共同参画室長の沖先生が同席されていたこともあり、ご自身の経験を交えて、女性として、働く女性として、そうした状況にどう向き合っていくべきかをお話しいただきました。夫や子供の事情によって女性のキャリアを変更せざるを得なくなる事は、研究者という立場に限った問題ではなく、職員の方々にとっても身近な問題でもあったので、室長のお話にも勇気づけられたとの感想が寄せられました。

DV (Domestic Violence) 防止講演会 「被害者・加害者にならないために」

11月25日(金)、岡山県男女共同参画推進センター・本学学生支援センター学生相談室との共催でDV防止講演会を実施しました。当日は、学内外の約120名の方にご参加いただきました。



NPOさんかくナビ理事長の貝原己代子氏が、DV被害者女性とその子供の支援活動に従事してきた立場から、DVの「被害者・加害者にならないために」と題し講演され、司会を女性サポート相談室の小畑相談員が担当しました。DVやデートDVに関する相談は、女性サポート相談室、学生相談室、保健管理センターまでどうぞ。

ミニコラム テータで見る岡山大学 男女共同参画の現状 ⑥

第3次男女共同参画基本計画(平成22年12月策定)では、「男性、子どもにとっての男女共同参画」が重点分野として挙げられ、男性が固定的な性別役割分担意識から解放され、子育てをはじめとする地域や家庭での活動に積極的に参加することが期待されています。

本学では、ダイバーシティ推進本部次世代育成支援室を中心に子育て支援を行っており、学内保育施設の整備が進んでいます。現在、乳幼児保育施設「なかよし園」(昭和51年設置)の利用者の20%強を男性が占めるなど、男性の積極的な利用が進展しています。一方、本学には男女を問わず利用できる育児に関する諸制度(保育休暇や育児短時間勤務等)が整備されていますが、男性の

利用は女性に比べまだまだ少ない状況です。例えば、男性が育児休業を取得した事例は過去に4件しかありません。

全国的に見ても、男性の育児休業取得率は1.72%(平成21年)と低く、基本計画の「平成32年までに13%」という目標達成は困難に思われます。なぜなら育児に専念できる配偶者がいることが多い男性は一般的に家事、育児に対する当事者意識が低く、また、職場環境も男性が休むことに対して厳しいからです。

今後とも、岡山大学では共働きの教職員を始め、男女を問わず働きやすい職場環境作りを進めていくことが必要だと思われます。

Q&A

平成23年度夏期に、かいのき児童クラブ(津島地区に設置された学童保育施設)を利用した子どもの親(利用申請者)に占める男性の割合は何%だったでしょうか？

編集後記

キャンパスはいろいろな意味で試験の季節です。卒業、進学に向けて期末試験に追われている在学生、これからの大学生活に夢を託して、入学試験に挑む高校生、多くの若い力が試されようとしています。男女共同参画室が文部科学省から活動支援を受けていた「学部・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」のプロジェクトも最終段階に入り、その活動が評価されようとしています。我々の多岐にわたる3年間の活動によってダイバーシティの概念やワークライフバランスの考え方は確実に浸透しているものと自負しています。このプロジェクトは、大学独自の事業として来年度以降も引き継がれ、装いを新たに男女共同参画の一層の推進を目指して再出発します。また、来年度の講義はプロフェッショナルを目指す学生さんに話題を提供する予定です。是非今後とも男女共同参画室の活動をご支援ください。

お問い合わせ

国立大学法人 岡山大学
ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室



〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中一丁目1番1号
TEL & FAX: 086-251-7011
E-mail: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp
http://www.okayama-u.ac.jp/user/jniji/diversity/danjo/



「女性が活躍する社会」の実現に向けて、男女共同参画の推進を支援します。

IV-i-6 (6) 新聞報道等

新聞等への掲載一覧

日付	新聞名等	紹介事業	参考記事 No.
平成23年7月12日	KCTコミュニティチャンネル (ニュース)	平成23年度 第1回おかやまサイエンス・トーク	
平成23年7月14日	山陽新聞 朝刊	平成23年度 第1回おかやまサイエンス・トーク	No.1
平成23年7月31日	山陽新聞 朝刊	平成23年度 第2回おかやまサイエンス・トーク	No.2
平成23年10月31日	山陽新聞 朝刊	第3回中国四国男女共同参画シンポジウム	No.3
平成23年11月20日	おかやま財界	第3回中国四国男女共同参画シンポジウム	No.4
平成23年11月25日	文教速報	第3回中国四国男女共同参画シンポジウム	No.5
平成23年11月28日	文教ニュース	第3回中国四国男女共同参画シンポジウム	No.6
平成23年11月30日	毎日新聞	DV講演会	No.7
平成23年11月30日	山陽新聞 WebNews	平成23年度地域における男女共同参画連携支援事業シンポジウム「性犯罪被害の根絶を目指して」	
平成23年12月8日	山陽新聞 朝刊	第2回メンタリングに関するセミナー	No.8

【No.1】

平成23年度 第1回おかやまサイエンス・トーク
(2011.7.14 山陽新聞 朝刊)

岡山大(岡山市北区津島中)の女性研究者を招いた「おかやまサイエンス・トーク」が12日、総社市総社の総社高であり、1、2年

理系分野へ関心高めて

岡山大 女性研究者 総社高でトーク



前田特任助教(左)の話聞く生徒ら

織さん(生物科学)が来訪。前田さんは糖鎖鎖状に結合した糖鎖を取り上げ、「人間のABO式血液型の決定、インフルエンザウイルスの侵入などにも関わりがある」と説明。玉木さんはコオロギを題材に、「昼夜の長さが生物の発育に及ぼす影響などを紹介した。2年林智久君(16)は「これからの学習に生かしたい」と話していた。同トークは、女性研究者の育成と中学・高校生への関心を高めることを目的に、岡山大が昨年度から開催。本年度は総社高など県内の6中学・高校で企画している。(新田真浩)

山陽新聞社掲載了承済み

【No.2】平成23年度 第2回おかやまサイエンス・トーク

(2011.7.31 山陽新聞 朝刊)

最新の科学研究 矢掛高生に解説
岡山の女性教員らが高校生に最新の研究内容や科学の面白さを伝える「おかやまサイエンス・トーク」が26日、矢掛町矢掛の矢掛高で開かれた。写真。普通科の2、3年生45人が参加。岡大大学院自然科学研究科の江口律子助教が「電子の動きを探つて物質の性質を見よう、変えよう」、岡大大学院生の花房志帆さんが「生物の行動と体内時計」と題し、取り組む研究の内容や意義、実験の概要などについて話した。電子と物質の関係を専門に研究している江口助教は、自らの経験を踏まえ「気になる言葉を深く調べてみれば、前に進むきっかけになる」と呼び

掛け。花房さんは、シヨウジョウバエを用いた生活リズムの研究を分かりやすく解説した。

山陽新聞社掲載了承済み

【No.3】第3回中国四国男女共同参画シンポジウム

(2011.10.31 山陽新聞 朝刊)

女性研究者支援 岡山大がシンポ 来月11日
岡山大は女性が結婚、出産後も安心して研究を継続できる環境づくりを目指し「女性研究者が活躍する大学」と題したシンポジウムを11月11日、岡山コンベンションセンター(岡山市北区駅元町)で開く。

三重大男女共同参画コーディネーターの鈴山雅子客員教授が三重県での女性研究者支援の現状や課題について講演。広島、島根大などの担当者も取り組みを紹介する。

午後1時半〜午後5時50分。無料で定員100人。終了後、立食形式の情報交換会(参加費5千円)もある。シンポジウムは申し込み不要だが、情報交換会は11月4日までに、岡山大男女共同参画室(086-2511701)に申し込む。

【No.4】第3回中国四国男女共同参画シンポジウム
(2011.11.20 おかやま財界)

岡山大は11日、中国四国地域の女性研究者を支援し、男女共同参画を推進することを目的とした「第3回中国四国男女共同参画シンポジウム」を岡山市内で開いた。「女性研究者が活躍する大学 支援ネットワークの強化を目指して」をテーマに各大学の取り組みの事例報告や基調講演などがあり、約100人が熱心に聴講した＝写真。

女性研究者の支援強化を 岡山大が男女共同参画シンポジウム



岡山大ダイバーシティ推進本部長の許南浩理事・副学長が「社会を構成しているのは男女、地位などさまざまな属性を持った人間。私たちは属性で人を見がちだが、多くは根拠のない思い込みだ。それを排する役割を大学が担っている」とあ

いさつして開会。三重大男女共同参画コーディネーター（客員教授）の鈴山雅子氏が「女性研究者支援ネットワーク構築の現状と課題 三重県における事例報告」をテーマに基調講演した。

広島、鳥根、香川、徳島、愛媛、岡山の6大学の担当教授らは「大学の意思決定に両性の意見を反映させる仕組みを検討し、提言として学長に提出した」「女性研究者をただ増やすだけではなく、活躍できる場の構築に努めている」などと報告。「大学構成員の女性比率の向上に努め、かつ意思決定過程への女性の参画機会を拡大すること」など5項目を盛り込んだ、中国四国地域10国立大学長連名の共同宣言を森田潔岡山大学長が披露した。同シンポジウムは2009年度に始まり、第1回は広島大、第2回は鳥根大が主催した。

支援ネットワーク構築の現状と課題

三重大・鈴山雅子氏 講演要旨

三重大は人文、教育、医、工、生物資源の5学部を持つ三重県内唯一の国立大で、教職員数は1765人。女性教員の比率は14.5%。男女共同参画の推進は2008年度、専門委員会と女性研究者支援室の2つのシステムで動き始めた。私は2009年度にコーディネーターに就任し、2システムをつないで全体的に動く流れをつくった。

2008年度、「文部科学省科学技術振興調整費女性研究者支援モデル育成事業」に申請したとき、女性教員の比率は13.0%、理系3研究科でみるとわずか4.3%だった。これを9.0%に引き上げたことを目標にした。三重の特産にちなみ、「パールの輝きで、理系女性が三重を元気に」というネーミングでプログラムをスタートした。根幹となったのが地域との連携だった。三重大と他大学、高専など、理系研

究者を擁する県内7機関が連携し、さらに情報誌を発行している県男女共同参画センターに広報の役割を担ってもらった。三重大学長が議長となっ



て7機関の連絡協議会も開催し、専門部会まで設けた。1機関で動くのではなく、一緒に手をつないで進むことが大切だと感じた。

本学のプログラムの特色をまとめると、中高生に理系進学を働きかける「ウェイクアップ事業」、大学生、大学院生らに理系研究を継続する楽しさを伝える「エンカレッジ事業」、子育て期の研究

者を支援する「サポート事業」を3本柱に、地域の教育研究機関と連携したり、県のセンターなどと協力し、2011年度にはほぼ目標通りの8.9%を達成できた。

女性登用に対する機関長のリーダーシップが発揮されるようになり、理系の女性研究者自身が存在意義と自信を持ち、県内女性研究者のネットワークも構築できたことが成果として挙げられる。半面、男性教職員への意識啓発や、理系に特化せずに学内全体に取り組みを波及させるといった課題もまだ残る。ものすごい成果があったとは必ずしも言えない。持続可能な形でこれからも継続したい。

おかやま財界掲載了承済み

【No.5】第3回中国四国男女共同参画シンポジウム
(2011.11.25 文教速報)

中四国男女共同参画シンポジウムを開催 岡山大

岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室は、女性研究者の支援と男女共同参画の推進をめざす「第三回中国四国男女共同参画シンポジウム」を十一月十一日に岡山市内で開催し、中国四国地区の各大学での取組などについて話し合った。

シンポジウムには、中国四国地区の大学、岡山県、岡山市の担当者ら約百人が参加。文科省科学技術・学術政策局の板倉周一郎基盤政策課長が「女性研究者の現状と中国四国地区大学への期待」と題した特別講演、三重大学の鈴木雅子・男女共同参画コーディネーターが基調講演を行った後、各大学と岡山県から取組事例が紹介された。

続いて、パネルディスカッションが行われ、岡山大の沖陽子男女共同参画室長がコーディネーターとなり、地域、大学間連携の可能性などについて、活発に意見が交わされた。写真。

最後に、中国四国地区の国立十大学の学長を代表し、森田潔岡山大学長から、取り組みの継続と発展を宣言する『中国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言』が読み上げられた。

シンポジウムは、文科省の「女性研究者研究活動支援事業(女性研究者支援モデル育成)」事業により実施され、来年は四国地区で開催予定。



官庁通信社掲載了承済み

【No.6】 第3回中国四国男女共同参画シンポジウム
(2011.11.28 文教ニュース)

文 教 ニ ュ ー ス

平成23年11月28日(月曜日)



岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室は11月11日、女性研究者の支援と男女

岡山大学 中国四国男女共同参画シンポジウム

共同参画の推進をめざす「第3回中国四国男女共同参画シンポジウム」を、岡山市内で開催し、中国四国地区の各大学での取組などについて話し合った。

中国四国地区の大学、岡山県、岡山市の担当者ら約100人が参加。板倉周一郎・文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課長が「女性研究者の現状と中国四国地区大学への期待」と題し特別講演、三重大学の鈴木雅子・男女共同参画コーディネーターが基調講演を行った後、各大学と岡山県から取組事例の紹介があった。続いて、パネルディスカッションが行われ、沖陽子・岡山大学男女共同参画室長がコーディネーターとなり、地域、大学間連携の可能性などについて意見交換が行われた。

意見交換を行ったパネルディスカッション

最後に、中国四国地区の国立10大学の学長を代表し、森田潔岡山大学長から、取り組みの継続と発展を宣言する「中国・四国地区国立大学の男女共同参画推進のための共同宣言」が読み上げられた。

シンポジウムは、文部科学省の「女性研究者研究活動支援事業(女性研究者支援モデル育成)」事業により開催され、来年は四国地区で開催される予定。

文教ニュース社掲載了承済み

【No.7】DV講演会

(2011.11.30 毎日新聞 朝刊)

暴力はだめ はつきりと

岡山大でDV講演 学生ら120人聴き入る

「DV被害者、恋人に对する暴力(DV、ドメスティックバイオレンス)を苦えようと、V被害者を支援するPO法人「さんかく」の員原「代子」理長が、岡山大北区

「DV被害者のほとんどは女性という。被害者は「相手を理解できるのは自分しかない。何とかがあけなくて」と暴力に耐える傾向にあるという。員原さんは実例を挙げて「(加害者は)力で相手を支配したが、殴った後は必ず優しくなって謝るので(被害者は)『本当はいい人なんだ』と暴力を許してしまうが、自分の所有物を逃がしたくなくて引き留められている」と指摘した。

「暴力をゆる

う側は理由付けして相手を殴る。ほとんどの加害者は悪いことをし

たという感覚を持たな

い」と述べ、「加害者が大事」と話した。

て気づいてもらおうと

に暴力は駄目だと伝え

【坂根真理】

毎日新聞社掲載了承済み

【No.8】第2回メンタリングに関するセミナー

(2011.12.8 山陽新聞 朝刊)

◆メンタリングに関するセミナー「大学教員としてのメンタリング実践」15日前10時、岡山市北区津島中、岡山大本部棟6階。中井俊樹名古屋大准教授が「FDとしてのメンタープログラム」の試み」と題して講演するほか、パネルディスカッションなど。無料だが申し込みが必要。岡山大ダイバーシティ推進本部男女共同参画室(086-251-7011)

山陽新聞社掲載了承済み